



# 学校だより

<http://www.sumida.ed.jp/ryogokusho/>

令和4年9月30日

墨田区立両国小学校

墨田区両国4-26-6

TEL 3634-7876



## 前期末 秋の三日月考

校長 渡邊 圭三

前期末には、学級担任から「学校生活の記録(通知表)」が渡されます。1年生にとっては、初めて手にするものであり、どんなことが書かれているかとドキドキしている子も少なくないことでしょう。この通知表の学習の記録欄には、各教科の観点別に「よくできる」「できる」「もうすこし」とお子さんの状況が記載されていますが、出来たか否かという目だけで判断しないでいただけたらと思います。子供たちは各々の進み方で学習に向かい、小さな歩みでも「分かった、できた!」と実感しています。そんな姿を思い浮かべながら、どの教科のどんな観点で力が発揮されたのか、努力の様子をご確認ください。また、行動の状況は、学習面での意欲や成果につながる大切な要素でもあるので、こちらも十分に認めてあげてください。

ところで、一昨日は「三日月」で、退勤時に雲の隙間からかろうじて見ることが出来ました。この三日月に関しては、自分が小学生の頃に聞いた言葉があります。「春の三日月は水が溜まっておぼろ月夜になり、秋の三日月は水が溜まらずくっきり見える」と。月の傾き方をうまく表したこの言葉自体はずっと憶えていて、それぞれの三日月を何度となく見る機会があったのですが、なぜそのような見え方をするのかについては分からずじまいでした。今、6年生が理科の時間に「月」の学習をしているのに感化され、私もこの見え方の違いについて調べてみました。その解説はここではしませんが、「知るは楽しみなり」の言葉の如く、疑問が解けるとすっきりすると同時に、また新たな疑問が生まれて「知りたい、調べたい」と思い、両国小の子供たちと自分とをなぞらえてしまいました。



春の月

秋の月

引用元 ウェザーニュース

三日月を「望みを叶えてくれる月」と呼ぶとも聞いたことがあります。その昔、太陽が沈む頃、西の空にわずかな時間しか見られないことから、人々は三日月を見付けられることを願いました。そして、三日月に自分の望みを託すと、やがて月が満ちてそれが叶えられると信じてきたそうです。四日目、五日目と前日より大きく満ちていく月。それは4月に自分のめあてを立て、半年間、その達成に向けて取り組んできた今の子供たちの姿と重なって見えます。日々の学びの中での「分かった、できた!」が次への意欲に繋がっていることでしょう。

前期末、子供たちの学習、生活がどのように実を結んできたのか、後期へどのように続いていくのか、温かく見守っていただければ幸いです。